

「ご挨拶

早春の候、皆様におかれましては益々ご清栄のことお喜び申し上げます、所長の横山です。田頃は弊社取り扱い各紙をご愛読いただき誠にありがとうございます。今年は三島由紀夫生誕100周年だそうです。たびたび紙面でも話題を見かけます。残念ながら私は、「金閣寺」しか読んだことがなく、三島作品の魅力を知りません。昨年は、山崎豊子氏の生誕100周年でした。山崎作品は大好きで全作読みました。今年が戦後80年に当たることは昨年より報道されていましたので、山崎作品の戦争三部作と呼ばれる「不毛地帯」「一いつの祖国」「大地の子」を改めて読み返しました。戦争の持つ不条理ですが、登場人物を通じて残酷なまことに描写されています。取り扱っている題材は違いますが、戦争体験者だからこそその視点を感じ、作品のすばらしさを再認識しました。若い頃は、「沈まぬ太陽」や「白の巨塔」が大好きで、ボロボロになるまで読み返していました。しかし、再読した「大地の子」は、人の親となつて改めて読むと、以前と違つ感想を持ち、名作だと感銘しました。

節目の年だからこそ、「戦争」に対する理解を深める年にしたいと思っています。そんな今田初め、「米ウクライナ、資源協定署名見送り 首脳会談で激しく口論」との衝撃的な見出しが目に入りました。2月末、首都ワシントンのホワイトハウスで行われた、トランプ米大統領とウクライナのゼレンスキーア大統領との記者団を入れた会談で、両首脳が激しい口論となり、予定していたウクライナの資源権益に関する署名を見送ったニュースです。カメラも入っており、映像は全世界に発信されました。そして4日後、「米ウクライナへの軍事支援停止」の報道。「誰がお前の国を助けてやつていいのだ」と言わんばかりのトランプ大統領の振舞い。ゼレンスキーア大統領の対応を非難する回きもあるようですが、侵略の被害にあつてゐるウクライナの人々を思うと、いたたまれない気持ちになります。侵略者に利するような和平がなされるなら、無秩序化していく世界に暗澹（あんたん）たる思いになります。

の1年、ソ連崩壊に伴いウクライナには1240発の核弾頭がありました。核拡散を懸念する米英露は、ウクライナを核拡散防止条約（NPT）に加入させたため、安全を保障する代わりに核弾頭を放棄させます。いわゆる「ブダペスト覚書」です。核弾頭を放棄した背景には、チェルノブイリ原発事故によるウクライナの核アレルギーもあったことはいえ、大国の息勝手な理屈で、約束を反故にされ戦禍に巻き込まれてゐるウクライナの人々を思うと、いたたまれない気持ちになります。侵略者に利するような和平がなされるなら、無秩序化していく世界に暗澹（あんたん）たる思いになります。

今月3日からニューヨークの国連本部で行われた核兵器禁止条約締約国会議に、ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）が招待されました。日本被団協がノーベル平和賞を受賞した背景には、真摯な活動はもちろんですが、ロシアの核兵器への脅威もありました。ロシアはウクライナへの核兵器使用を畏り、他国の支援を躊躇させています。世界で唯一の被爆国である日本。だからこそ、核兵器の残酷さを世界へ発信し、核兵器廃絶へのリーダーシップが發揮できるはずです。日本は核兵器禁止条約締約国会議へのオブザーバー参加さえ見合わせ続けています。8月15日に向け、多くの戦争に関する報道が紙面に掲載されると思われます。「戦争」とはなんなのか、平和の重みを感じながら紙面と向き合つたいです。一田も早く、ウクライナの人々に安寧の日々が訪れる」とを願っています。

馬 洋 書 翁

第25号

発行日： 2025年3月16日
発行所： 株式会社エヌワイケー
〒154-0012
世田谷区駒沢5-7-6
電話： 03-3704-8391
FAX： 03-3703-7121
発行人： 横山和俊

編集後記

今回の編集後記では、本物は秘密にしておきたいお話。ただ過去のグルメネタと違いかなり嗜好が強いので興味の無い人には全く刺さらないお話です、お許しください。昭和50年生まれの私の青春時代は、アメリカ全盛期。流行りの雑誌はポパイやホットドックプレス。ダブルのワイダースジャケットをはおり、エンジニアブーツにベルボトム。街にはこんな若者があふれています。メイドインの人に本物の匂いを感じ、アメリカンカルチャーを吸収しようと躍起になっていました。憧れのアメリカンブランドは数あれど、初めて身につけたのは、中学生の時に買つてもらつた「リーバイス」。さうです、ジーンズです。最初の一本目は1950年、今でも覚えています。当時、ジーンズショップにあつたリーバイスのカタログを穴が開くほど読み、父親にお願いしたと記憶しています。時は流れ、今ではアウトレットでサイズだけ合わせ、何のこだわりもなく購入していました。しかし、再びあの時と同じときぬきを感じる出会いがありましたのです。

藩政時代をしのぶことが出来る旧道を通るとタイムスリップしたようで心が和みます。金沢勤務時代は街全体が藩政時代の城下そのものでした。どこにいても癒されました。大田区勤務時代では旧東海道の面影を残す通りに癒されました。今は通勤で使う旧甲州街道が私の癒しです。そんな街道は気になるスポット、気になるお店が面白押しです。その中の一つが今回紹介するジーンズショップ「アシカワ」です。

「星条旗」に「JEAN」の文字、とにかく昭和を感じるその電飾看板が通るたびに目をひきます。建物には見慣れた「リーバイス」ロゴの看板も。気にはなつていませんが、レトロな雰囲気がそこまで興味を引かず毎日素通りしていました。その日もいつものように電飾看板に昭和を感じながらながらながめていたるど、店内に人影がみえました。なぜが、その日は寄つてみようと思いました。ロターンをして引き返します。ドキドキしながら扉を開けると、店内には乱雑に積まれた大量の衣類が。明らかに最近利用しているアウトレットのジーンズショップとは違う匂いがします。掘り出し物の匂いがブンブンです。多分、そんな思いが私の表情に出でていたのでしょうか、「トッヂストック、探してらねのかい?」と在庫の量に圧倒され、存在をわすれていた店員さんに声をかけられます。あわてて振り返ると、おじいさんが微笑んで私を見ています。オーナーの芦川さんです。なんと「アシカワ」は昭和38年創業の老舗のお店だったのです。聞けば、正規での輸入が始まる前からリーバイスを並行輸入し販売していたとのことです。なぜこのジーンズ界の生き字引のような方。日本でのリーバイスの販売の歴史の話から始まり、「アシカワ」の歴史、もちろん各ジーンズの良し悪しまで。当時は芦川さんにお薦めのジーンズを3本ほど見繕つてもらつてお店を後にしました。気が付けば2時間近くおじやましていました。その日、私が購入したのは現行では生産されていないモデルです。たまたまサイズが合つたおかげで購入にいたりました。興味があれば、ぜひ足を運んでもらいたいのですが、生産終了モデルはサイズが限られます。芦川さんも一番それを気にかけておられました。今回紹介した一番の理由は芦川さん、4月で85歳になられたのです。一人でも多くの方に芦川さんの魅力が伝われば幸いです。



「アシカワ」

東京都調布市下石原1丁目33-4

042-482-9214

※木曜定休で13時~19時

